

## 佐賀県における木質系産業用資材の需要ポテンシャル調査結果について

佐賀県林業試験場 荒谷 清英  
灰塚 敏郎

## 1. はじめに

佐賀県内における農林水産業用資材等（木質系）の需要ポテンシャル調査を行ない、今後、地場産材の各分野における資材の将来性、需要開発の方向を明らかにして地域に適合した、合理的生産システムの検討を行うなど県産材の総合的利用促進を図る目的で、県内一円にわたり利用状況を調査し、その概況を得たので報告する。

## 2. 調査方法の概要

調査は県内全域にわたり、農業（野菜、施設園芸、果樹）、林業、畜産業、水産業など住宅用材以外に利用されているもの、または、利用の可能性が想定される資材について、農協、漁協等関連団体、農、林、漁家、製材業などの調査対象に対して、面接調査と部材測定を実施するとともにセンサス等の既存統計資料、文献等により調査した。

## 3. 結果の概要

## 1) 建造物調査

建造物については、畜舎10件、堆肥舎2件、施設園芸ハウス10件、産物選別貯蔵庫7件、きのこ栽培ハウス1件、水産用作業場1件について調査した結果、木質系資材の使用量は次の通りであった。

① 牛舎の木造では古材の再利用によるものが多く約1,348<sup>m<sup>3</sup></sup>/頭、非木造では約0.159<sup>m<sup>3</sup></sup>/頭で外材及び合板が多く使われており、また、新しく建設されている牛舎の大部分は非木造であった。

② 豚舎は、大部分が非木造で約0.001<sup>m<sup>3</sup></sup>/頭と非常に少ない。

③ 鶏舎の採卵舎では約1.92<sup>m<sup>3</sup></sup>/千羽とその構造上比較的多く使われ、プロイラー舎では約0.574<sup>m<sup>3</sup></sup>/千羽と少ない。

④ 堆肥舎は、近年畜舎と附設される例が多く、下部はブロック、上部は木造が多く平均0.082<sup>m<sup>3</sup></sup>/m<sup>2</sup>である。

⑤ 施設園芸ハウスは、大部分は非木造で10アール当たり約0.804<sup>m<sup>3</sup></sup>で、全く使用されていないハウスも多い。用途として山間地では雪害の補強材、平地では台

風等に対する倒壊防止の支柱材に使用されている。

⑥ 産物選別貯蔵庫は、主にミカンとタマネギに大別され、貯蔵庫100<sup>m<sup>2</sup></sup>当り、ミカンの場合木造で16.50<sup>m<sup>3</sup></sup>、非木造では1.63<sup>m<sup>3</sup></sup>使用されていたが、地域によって構造が違うため判断しにくい。また、タマネギの場合、小屋材と、かけ棒に区分されるが、両方合わせてタマネギ畑10アール当たり約0.696<sup>m<sup>3</sup></sup>となった。

⑦ 水産業用作業場として煮干工場があり、約1,043<sup>m<sup>3</sup></sup>/m<sup>2</sup>であった。

## 2) 杭、支柱類調査

① 牧柵、果樹支柱はほとんど鉄パイプ、コンクリート支柱材である。

② 干場支柱として、干柿1万個当たり約0.656<sup>m<sup>3</sup></sup>、シイタケ樽場の支柱材として0.527<sup>m<sup>3</sup></sup>/千本、花卉園芸支柱として山間部では約1,511<sup>m<sup>3</sup></sup>/10a使用されている。

③ 養殖いかだ用として、魚類養殖台に約1,112<sup>m<sup>3</sup></sup>/台、真珠養殖作業台として約0.523<sup>m<sup>3</sup></sup>/台使用されている。

④ 造園用支柱材は、昭和58年度に約219<sup>m<sup>3</sup></sup>使用されている。

## 3) 木箱等調査

① 農業用育苗箱、集荷箱は大部分がプラスチック製品が使用されている。

② 海産物用木箱は、年間約285万箱が使用されており、原木で約19,000<sup>m<sup>3</sup></sup>（歩止り50%として）となるが、これらの大部分は米松、カラマツ材である。

## 4) その他（鋸屑）

家畜敷料として、プロイラーの場合、約0.655<sup>m<sup>3</sup></sup>/千羽、乳牛の場合、約4.8<sup>m<sup>3</sup></sup>/年1頭を使用している。

## 4. むすび

以上のような利用状況であるが、各分野に亘り、非木質系資材の浸透が激しく、益々、木質系資材の利用範囲が狭められる恐れがある。

今後、県産木材を地場産業用資材として需要開発を図るには、資材の安定供給と販売体制の整備、部材のユニット化、アフターサービスの強化等とともに品質の改良、改善を図る必要がある。

主要資材の需要量調査表

昭和60年3月30日現在

対象品目	調査件数	58年現在の総量	単位	単位当り推定木材使用量	木材使用総量(推定)	耐用年数(推定)	年間木材需要見込量(最大)	主要部材規格等	備考
畜産	牛舎 (肉牛)	32,300 頭	頭	0.085~0.191 0.138	4,457.4	18年	247.6	鉄骨系では、米マツ及び合板が多い。	軽量鉄骨及び重量鉄骨系
	牛舎 (乳牛)	14,300 千羽	千羽	0.160~1.348 0.594	8,494.2	18年	471.9	〃	木造
	鶏舎 (採卵)	1,580 千羽	千羽	1.920	3,033.6	18年	168.5	〃	軽量鉄骨
	鶏舎 (ブロイラー)	2 千羽	千羽	0.455~0.692 0.574	1,730.0	18年	96.1	〃	ブロック壁
	堆肥舎	2 頭	頭	0.019~0.045 0.032	1,491.2	18年	82.8	〃	
小計	10	46,600	頭	0.032	14,206.4		1,066.9		
農	木造ハウス(ミカン)	1	ha	27,826	-	5年	-		現在、本県には1件のみ
	貯蔵庫等	3	ha	1,636~16,500 9,409	6,416.7	26年	246.8		ブロック造り~木造板壁
	タマネギ	3	ha	0.498~0.898 0.696	11,971.2	26年	460.4	φ 5cm - 8cm × 2.2m	小屋+かけ棒
	支柱(シイタケホダ場)	2	千本	0.527	370.5	5年	74.1	〃	
	(造園土木)	1	千本	-	-	-	219.2	φ 6cm × 1.8m	
林	水産業用作業場(煮干し)	1	ha	4,686	314.0	26年	12.1	10.5cm × 10.5cm 9.0cm × 9.0cm	その他 イロコバ、スダイ有り
	小計	11	ha	4,686	19,072.4		1,012.6		
水産	支柱(のり網)	2	ha	0.210	518.3	5年	103.7	cm 5m × 5m(55.7%) φ 6~8 10m × 10m(28.1%)	(3.5 × 3.5)~(24.0 × 24.0) 20種程度
	養殖いかだ等(魚類)	1	ha	1.112 新 0.493 旧~0.552	1,445.6	ヒノキ材 10年 スギ材 5年	192.7	cm φ 6~8 5.4m ~ 6.3m	イカダ式
	(真珠)	2	ha	0.523	81.1	ヒノキ材 10年 スギ材 5年	10.8	cm φ 6~8 5.4m ~ 6.3m	
小計	5	ha	0.523	2,045.0			307.2		
飼育	家畜敷料(ブロイラー用)	2	千羽	5.556	2,791.0	2.5年/木材	1,116.0	チップ(カンナクズ等粗目)15%	年4回交換
	(肉牛用)	1	頭	1,071~10,714 4,822	155,750.6	〃	62,300.0	(全部使用した場合)	オガクズ不足及び高価なために 実際の使用量は少ない。
	小計	3	頭	4,822	158,541.6		63,416.0		
合計	29			193,865.4			65,802.7		

第30次 佐賀農林水産統計年報より